

七月十八日は「勤労青年の日」

試行錯誤の年代 三年で約五割が離職

勤労青少年——働く若者のうち、中学卒業者の約五割、高校卒業者の約四割が、就職してから三年以内に職場を変えています。

この数字は、昭和五十一年三月に卒業して就職した人を対象に、三年後の離職状況を調べた労働省のデータによるものですが、働く若者たちの離職率は、ここところまた、少し高くなる傾向にあります。



傾向にあります。

こうした背景には、社会状況の変化や、就職する時点での職業の選び方なども重要なかわりを持つ問題としてありますが、七月十八日の「勤労青少年の日」を機会に、若い人たちの仕事に対する考え方や、働きがいのある職場づくりなどに問題を絞って考えてみましょう。

十五歳から二十歳前後といえ、社会人として人生という長い航海に船出

をしたばかりの時期です。その意味では、いろいろな試行錯誤があつて当然ともいえる年代で、仕事についても同じことが言えると思います。

自分の能力・適性にあつた職業であるか、一生をかけて自分は心底何をしたいのか、人生の設計図と現在の仕事とは合致しているか、また、収入の面にウエイトを置くのか、それともお金は二の次で自分の能力を思いきり発揮したいと思つているのか——こうした

少年勤労者の日

職場の先輩は

若い人のよき相談相手に

雇用職業総合研究所顧問 佐藤 武

人生に対する価値観とからんだ悩みは、若い人ならずとも人間ならば常につきまとう性質のものといつていいでしょう。

職業人として

悔いのない行動を

若いうちは、とくに自分を見極めることが大切ですが、しかし、たいへん難しいことです。

しかも、仕事に対する考え方や価値

観は、年齢とともに、また、自分を取り巻く環境や社会状況の変化などによつて変わっていくのが普通です。

こうしたことから、自分の職業観と現実のギャップを埋める手段として転職を決意する若者も少なくないと考えられます。

一方、離職していく人のなかには人生や仕事に対する考え方が常にあるに過ぎない。また、自分を見極める努力を怠るがゆえに、次々と職場を変えていくタイプの若者もいることは事実です。

たとえば、「どこかに勤めれば、なんとかなるだろう」とか「仕事が楽で、その上、給料もよさそうだし」……といった安易な考え方をしている場合、極端な話、次々と短期間のうちに仕事を替えていくということにならないと限りません。

ですから、職業人として悔いの残らない行動をとるように努めてほしいと

思います。

「魅力ある先輩」の存在が

職場への愛着を生む

いずれにしても、若いうちは、人生に仕事に、いろいろな悩みを抱えているものです。しかも、自分一人ではなかなか判定が下せない——そこで事業者のみなさん、とくに中間管理職といわれる職場の先輩のみなさんをお願いしたいのは、若い人たちのよき相談相手になつていただきたいということです。

若い人たちが、職業人として健やかに成長しようという意欲を持てるように、仕事の面はもとより、余暇活動などについても親身になって話を聞いてやり、適切なアドバイスをしてあげてほしいと思います。

同時に、事業所のみなさん一人ひとりが若い人たちにとって「魅力ある先輩」になるよう心がけていただきたいと思ひます。

生き生きと積極的に仕事をこなしていく身近な先輩がいること——この点に、新入社員が職場に愛着を持ち、長く働くという気持ちを抱くことが多

(談)